



12月トリアだより



12月の活動



月	火	水	木	金	土
<p>※トリア療育参観が11日(月)~15日(金)の期間であります。 後日、コドモンにてアンケートを配信致しますのでご確認お願い致します。</p> <p>※12月29日(木)~1月3日(火)は、冬季休暇とさせていただきます。</p>				<p>1 感触・ルール</p> <p>スモック</p>	<p>2 休み</p>
<p>4 運動 認知課題</p>	<p>5 音楽・絵画</p> <p>スモック</p>	<p>6 屋外・手指</p> <p>帽子</p>	<p>7 感触・ルール</p> <p>スモック</p>	<p>8 運動</p> <p>(早降園日)</p>	<p>9 感触</p> <p>スモック</p>
<p>11 音楽・絵画</p> <p>スモック</p>	<p>12 屋外・手指</p> <p>帽子</p>	<p>13 感触・ルール</p> <p>スモック</p>	<p>14 運動・誕生会</p>	<p>15 音楽・絵画</p> <p>スモック</p>	<p>16 休み</p>
<p>18 屋外・手指</p> <p>帽子</p>	<p>19 ルール</p> <p>(早降園日)</p>	<p>20 運動 認知課題</p>	<p>21 音楽・絵画</p> <p>スモック</p>	<p>22 屋外・手指</p> <p>帽子</p>	<p>23 絵画</p> <p>スモック</p>
<p>25 ルール クリスマス会</p>	<p>26 運動 認知課題</p>	<p>27 音楽・大掃除</p> <p>(避難訓練)</p>	<p>28 大掃除 お正月遊び</p>	<p>29 休み (冬季休暇)</p>	<p>30 休み</p> <p>31 休み</p>

※専門職の来所予定日

公認心理師(松本)：16日(土)、25日(月)~28日(木)

言語聴覚士(永山)：7日(木)、9日(土)、11日(月)、14日(木)、15日(金)、18日(月)、19日(火)、28日(木)

理学療法士(樋口)：16日(土)、20日(水)、21日(木)、23日(土)、27日(水)

作業療法士(大平)：4日(月)、5日(火)、12日(火)、16日(土)、



- ・持ち物全てに記名をし、持たせて下さい。**おしほりタオルや、手拭きタオル**にも記名してください。
また、記名がない場合は事業所にて記名をさせていただきます。ご理解のほどよろしくお願い致します。
- ・当日のキャンセル連絡は、お電話にて**9時00分までに連絡**をお願い致します。9時00分以降の連絡になりますと、**昼食代(264円)**が発生します。
- ・**トイレトレーニングを行っている方は**、トレーニングセット(パンツ、スポン、Tシャツ、肌着、ビニール袋)を袋にまとめて準備をしていただきますよう、お願い致します。
- ・着替えた衣類を入れる袋を、必ず持たせて下さい。(スーパーのビニール袋等で構いません。)
- ・衣服の調整がしやすいよう**薄手の衣服を数枚**持たせてください。



不登校について考える

2022年度学齢期の「不登校」や「いじめ」の全国調査結果(令和5年10月4日)が発表された。小・中学校の「不登校」は29万人と10年連続増加となり、過去最多となった。「いじめ」も最多の68万件となった。この調査結果を今後解決するには、学校だけでは限界がある。行政も含めて社会全体が、考えていかなければいけない深刻な問題である。

現在住んでいる、鹿児島県においても「不登校」は前年度比18%増の4,507人(10月6日)、5年連続最多を更新した。「いじめ」も前年度比5%増の10,820件と発表された。紙上には、「コロナ渦で行動制限など環境の変化で対人関係を築くのが難しくなり、登校意欲も湧きにくくなった」と記されていた。確かに一因と考えるが、この状況は未来の日本を支える子どもたちの「生き方に関わる」重大な問題であると考え。背景には、社会状況、経済状況、生活格差、教育等々の困難な課題があると考え、**「本人の声」や「思い」を大切に**する一人一人に向き合った支援について、真剣に議論する時が来ている。

鹿児島県は、江戸時代以前より薩摩独特の異年齢の子どもたちの縦割りの自治教育、「郷中教育」があり、地域の子も同士が差別なく一緒に育みあい、偉人を輩出した歴史がある。今の時代は江戸時代とは違う。しかし、その教育は「人として生きていくために大切な忠義」、「礼節」等を学び、薩摩独特の士風と文化の基礎を築いてきた。薩摩の人材育成の要として青少年育成錬成組織となった。「郷中教育」を学び、「相手の心の痛みが分かる優しい心を持った児童・生徒」を育て、地域で安心して暮らせる社会を目指さなければならないと考える。

兵庫県立「山の学校」校長の田中裕一氏は『不登校の児童・生徒、一人一人の声、思いを大切にすることが重要である。そのことは本人の思いどおりになる様にするだけでなく、学校は当然連携するのが当たり前であり、「人と人」そして、「機関と機関」と積極的に情報を共有して連携して支援することが大切である。不登校の子どもが、学校に登校するというのは、方法の一つであり、目標ではない。登校しないというのは、選択肢の一つである。本人が「どう過ごすかという視点が」大切である』と、述べている。

子どもたちの声は、「どうせ、〇〇なんか・・・」「人生、余っちゃった・・・」「ただ生きているだけ・・・」等と、社会に希望が持てない言葉が聞かれることがある。子どもたちの心の中を、分かってもらえない大人や社会への不信があると、私は考える。周りの支援者・大人たちは、「苦しみ」、「生きづらさ」、「心の苦しさ」を理解して、「その人らしい生き方」を一緒に考えることが大切である。

人は「違って当たり前」、「人はみないい(良い)」という、個々の違いを認めあい、多様な人々が、地域で安心して暮らすことができる共生社会の実現の為、本人と支援者との信頼関係を築き、本人の「やりたいこと」や「できること」から、本人の意思を尊重し取り組むことが大切である。また、支援者は家族も苦しんでいることを理解して、家族支援も一緒に取り組むことが求められる。家族を元気にして、お互いをねぎらうことが重要と考える。

支援者は、「良き支援者より良き理解者」になること、そして「顔の見える関係づくり」に努めることが大事であると日々考えている。



教育相談員
馬籠 裕二

